

「終活」を哲学しよう - 生と死の幸福論 -

人生が幸福かどうかは、金銭、権力、名声などを含む「よき生」をいかに実現するかによります。これらは大変に魅力的なので、一旦手にすると、年齢と共に益々手放せなくなります。しかし人間の生には限りがあり、死は避けられません。死への旅立ちが孤独で不安に満ちています。生と死の間の幸福にとって重要なのは、こうした死への準備であり、そのための老いの生き方です。本講義では、この点について生命倫理と宗教の両観点から考えます。

日時 / 平成27年12月5日(土) 13:30~16:40

会場 / 合人社ウエンディひと・まちプラザ
(広島市まちづくり市民交流プラザ)
北棟6階マルチメディアスタジオ
(〒730-0036 広島市中区袋町6番36号)

定員 / 100名(定員を超える場合は抽選)

受講料 / 750円

受講対象 / 高校生・一般

● 新たな人生の出発としての老い (13:30~15:00)

講師 / 松井 富美男 (応用哲学・古典学講座 教授)

老いは人生の末端現象のように受け取られがちです。確かに老いの生命力は若者のそれと比べて著しく劣り、一定の社会的役割を終えた燃えカスのようなものです。しかしこれとは別に、老いには死への新たな出発という意味があります。それを自覚できれば、老い特有の生の創造が可能になるかもしれません。そのためにはどうすればよいのかを一緒に考えます。

● チベットの臨終儀礼に学ぶ死の迎え方 (15:10~16:40)

講師 / 根本 裕史 (応用哲学・古典学講座 准教授)

仏教は古来より死という現象を分析し、理想的な死のあり方を追求してきました。例えばチベット仏教には「ポワ」と呼ばれる臨終儀礼があり、死者の意識を浄土に移行させる技法が、精緻な理論に基づいて実際に行われています。本講座では「ポワ」の手引書を読み解きながら、死にむき合うための仏教の智慧を学びます。

申込方法：はがき（一人1枚※往復はがきではありません。）に、①講座名、②氏名（フリガナ）、③郵便番号、④住所、⑤電話番号を記入し、下記の宛先へお申込みください。なお、電話・FAXでの申込受付は行っていません。定員を超える場合は抽選となります。

(公財) 広島市文化財団 ひと・まちネットワーク部管理課「リカレント講座(広島大学)」係
〒730-0036 広島市中区袋町6番36号

申込期間:平成27年10月1日(木)~10月31日(土)

【問い合わせ先】

○広島大学大学院文学研究科
支援室(運営支援担当)
TEL 082-541-5335
FAX 082-424-0315

○(公財) 広島市文化財団
ひと・まちネットワーク部管理課
TEL 082-541-5335
FAX 082-541-5611